

令和3年度第1回地域福祉専門分科会における委員からの追加のご意見と市の考え方

資料1-1

委員氏名 (五十音順・ 敬称略)	報告事項(1) 各区支え合いのまち推進計画の推進状況について		報告事項(2) 地域福祉に関する千葉市WEBアンケート調査結果について	
	ご意見	市の考え方	ご意見	市の考え方
岡本 武志	若葉区の低評価については、他区と差異がありすぎるため、更なる分析が必要であると考えます。	評価にあたり、新型コロナウイルス感染症の影響をどの程度勘案するかについて、各区推進協の判断・決定に委ねた部分があったことから、差異が生じたものと考えております。	松崎委員の予測できる回答であるということに同意見です。	次回のアンケート実施に際しては、設問内容等にさらなる工夫や検討が必要だと考えております。今後も、限られた資源の中で最大限の効果を発揮することができるような方策を検討して参ります。
岡本 博幸	地域福祉課長様 専門分科会のまとめご苦労様でした。感謝申し上げます。緑区推進計画につきましては、皆様のご協力を得て大変よくまとまっていると思っています。皆様のご協力を感謝しています。コロナ禍の収束が決まりましたら、行動に入りたいと思っています。	ご意見をいただき、ありがとうございます。	書面ではなく対面によって、個々の考え意見を聞くことが一番大切であると思っています。早くその日がくるのを待っています。また新しいコロナウイルスが出て来て、先が見えませんが、福祉行政を進めていきたいと思っています。課長様、おまとめありがとうございました。	ご意見をいただき、ありがとうございます。
住吉 タミコ	・コロナ禍で感染リスクに配慮しながらの事業施策は大変だった事と思います。 各団体が工夫活動されている事例を収集し、周知・共有していただけたらと思います。 ・各区の地域には歴史があり、地域性があります。 この地域性についての課題も情報共有を図っていただきたい。	本計画においても、コロナ禍で工夫されている事例を紹介するとともに、引き続き、地域の参考となる事例の収集を行い、ホームページ等で周知・共有させていただきたいと考えております。 また、地域ごとの課題につきましても、社会福祉協議会と連携しつつ適宜分析を行い、課題の共有に努めます。	WEBアンケートは今回個人ですが、企業にも望みたいです。 ・地域の会社特性を生かしたボランティア活動等に貢献いただきたい。(特に災害時等) ・得意分野を生かしたプロボノ 既に活動されておられるかと思いますが、地域では是非貢献いただきたい。	地域生活課題の解決には、多様な主体のさらなる参画を促進する必要があると考えており、企業は、その重要な主体のひとつです。今後、企業の平常時・災害時の社会貢献・地域貢献へのアプローチやプロボノ活用の促進方法について、アンケートの実施を含め、幅広く検討を行います。
武井 雅光	コロナ禍のなか、各地区部会がいろいろ努力して活動を続けたことは評価します。 一方、成果としてあげたものが地区部会全体のどの程度までカバーしているのか大変不安を感じます。地区部会全体の「大半なのか」「半分程度なのか」「2・3割のレベルなのか」を評価の中に入れると、進捗状況・完成度が明確になり、次に努力すべきポイントも明確になってくると思います。	ご意見を踏まえ、評価方法等について、検討を進めます。	アンケートの質問内容にはもう少し工夫がほしいといつも感じています。一方地域福祉の担い手確保はどの地域でもかなり難しい問題ですが、これまで自分の地区で3回行ったアンケートの結果見えてきた事として、「福祉活動の担い手を募集しています」と言ってもまず手をあげてくれる人がいない反面、「このテーマのこの仕事をやれる人募集」とかなり具体的な話しをすると想定以上の多くの方が手をあげてくれた実態があります。そのあたりの工夫がポイントのように感じます。	ご意見をいただき、ありがとうございます。ご提示いただいた工夫のポイントについて、共有を図ってまいります。
津田 正臣	本項目に関し、各委員及び事務局のご意見より、今後福祉計画を推進して行く上で ・活動の担い手 ・コロナ禍での工夫した活動の要素 などを分科会の共通議題として早急に議論してゆくことが大切であると思われました。	活動の担い手の問題につきましては、引き続き本分科会で議論してまいります。また、コロナ禍での工夫した活動の要素についても、皆様と議論や分析を行い、今後の地域福祉計画の推進につなげていきたいと考えております。	・活動の担い手の問題にもかかわると思いますが、地域活動の必要性の周知・啓発等の強化の徹底 ・行政としては自治会との関わりが深い地域振興課との連携(自治会への啓蒙・啓発の強化のため)。 ・各地区部会による傘下の自治会への啓蒙・啓発強化の実施。 ・現役世代に対しては、民間企業、行政機関に携わる人々の企業活動、行政活動の中に地域ボランティアを義務づけるような社会的風土の醸成。等が必要と思います。	ご意見のとおり、自治会への地域活動の必要性の周知・啓発等は大変重要であり、区役所(地域振興課)との連携強化をさらに進める必要があると認識しています。また、地区部会から自治会への啓蒙・啓発については、市社会福祉協議会と連携し、協力して取り組んでまいります。さらに、ご意見のとおり、地域活動を発展・持続させるためには、若い世代、現役世代のさらなる参画が必要であり、市役所も含めた行政機関や民間企業等への制度面での働きかけ等について研究します。

委員氏名 (五十音順・敬称略)	議題(1)支え合いのまち千葉 推進計画(第4期千葉市地域福祉計画)の推進状況について		議題(2)支え合いのまち千葉 推進計画(第5期千葉市地域福祉計画)の素案について	
	ご意見	市の考え方	ご意見	市の考え方
岡本 武志	コミュニティーソーシャルワーク機能の中核を担うのが、コミュニティーソーシャルワーカー(CSW)ですが、増員後、これまでどのような役割を担って来たのでしょうか?具体的な活動内容を教えてください。	増員は、令和2年度から4年度にかけて実施する予定です。令和2年度については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による緊急小口資金等の特例貸付の相談・申請に係る業務への対応、地域活動の再開・継続支援に注力してまいりました。 なお、コロナ前の具体的な活動内容として、地域支援に取り組んだ事例では、電球交換や庭の草取り、買い物など、住民同士でちょっとした困りごとを解決する支え合いの仕組みが立ち上げられないかとの相談が住民からあったケースについて、市内の支え合い活動の先進事例の紹介、立ち上げ方法について住民との共同検討、買物支援サービスの実施に向けたスーパーや近隣の社会福祉施設(空いている福祉車両を活用した送迎)との調整・交渉など、支え合い活動が円滑に立ち上がるように支援を行いました。	地域福祉もコロナを経てデジタル化されることに賛成です。 各種会議でも対面とWEBのハイブリットで開催できるように努めてもらいたいと思います。また、高齢者もスマホを持っている時代ですので、スマホの操作を教えられる場所を社協などで作ることができれば良いと考えます。	今回のコロナを契機とし、地域福祉分野のデジタル化を進めることで、「担い手が高齢化し、不足している」「若い世代の参画がない」「活動場所がない」「地域に社会資源がない」といった、現在、地域福祉分野が抱えている様々な課題の解決の糸口が見つかる可能性があると考えております。各種会議も、WEBで実施できれば、場所や時間に制約されず、参加しやすい環境が整い、そのことによって、負担感が軽減され、地域福祉活動団体の持続可能性が高まるものと認識しております。 そのためにも、まずは環境を整える必要がありますので、スマホの操作に不慣れな高齢者を対象にスマホ講座を開催するとともに、社協等によるスマホ講座の実施やCSWや生活支援コーディネーターによる地域団体のオンライン化支援を行って参ります。
住吉 タミコ	コロナ禍、感染リスクに配慮しながらの事業施策は、大変だった事と思います。 この経験を生かしつつ「誰も置き去りにしない 断らない 相談支援体制の構築」次期計画の推進につなげて頂きたい。	ご意見をいただき、ありがとうございます。	・生活自立、仕事相談センターを美浜区にも是非設置を目指していただきたい。 ・コロナ禍において「新しい生活様式」を取り入れる中、デジタル化、オンラインツール活用は必要です。ただ、まだまだ、紙：対面世代も多く、現時点では、両方必要だと思います。 ・地域の企業、学校等と多様に連携参画してもらい、地域をともに創っていく事が大切だと思います。	生活自立・仕事相談センターについては、全区に設置することを目指しております。 また、第5期計画においては、主要施策のひとつとして「地域福祉活動におけるオンラインの活用支援」を位置付けておりますが、並行して紙媒体や対面方式を取り入れるなど、デジタルを使いこなせない方々への配慮も必要であると考えております。 さらに、ご意見のとおり、地域の企業・学校等の地域福祉活動へのさらなる連携・参画を促進することが、地域福祉の推進につながるものと認識しております。
武井 雅光	評価としてはかなり甘いと感じるもの(定性評価の1部)や、事業内容と令和2年度の予定・目標にずれがあると感じるものも数件ありましたが、コロナ禍の対応であり議論してもあまり意味がないので省略します。一方今回のコロナ問題等が発生したとき、その対応を優先させるとともに、その制約下で個々の課題にどう対応し、努力したかも大変重要でその評価ができればと感じました。又個々の事業の活動内容や成果がこのまとめを見るまでほとんどわからないのも問題で、出来れば一般市民に少なくとも福祉活動従事者に伝わる努力は必要と思います。	ご意見をいただき、ありがとうございます。コロナ禍で生じた様々な課題に対し、地域では様々な努力がなされておりましたが、情報の把握や周知には課題があったものと考えております。今後も、第6波が想定されているところですが、市政だよりやホームページを活用し、タイムリーに情報の把握や周知ができるよう、努めてまいります。	修正を求めたいもの等かなりあるが、主なものは以下の通り。 ①P1 策定の趣旨で社協地区部会が各区地域福祉計画を担っている記載がない。下5行目に各地域においては、「社協地区部会が中心になって各区地域福祉計画を推進しており、又」民生・・・を入れたら。 ②P4「本書における用語の定義」解りにくくカットすべき。「地域住民等」どこに使われているか。「生活課題」まぎらわしい。 ③P23 下7行目「社協地区部会が」下10行目「社協・・・地域住民等が」主語が変わるのか、又定義の問題。 ④P30・2項3行目「地域支え合い活動」などの記載不要。例として載せたのなら「見守り活動」では ⑤P30・4行目、市社協の記述で、地域の取組みへの支援とあるが「地域福祉活動計画」と「各区地域福祉計画」は大半は同じもの。なぜ別々の計画にするのか疑問を感じる。今回は無理でも、両計画を一本化し、更に各区地域福祉計画の推進業務を社協に一式委託して効率化をはかることを提案したい。	①「社協地区部会が中心になって各区地域福祉計画を推進しており、又」を入れることについては、「社協地区部会が中心となり、町内自治会や民生委員・児童委員をはじめとする様々な関係者・団体により、各区地域福祉計画を推進しており、また」に修正します。 ②ご意見のとおり、削除します。 ③「社協地区部会が、地域の中核組織として地域の様々な組織や団体と連携・協力を図りながら、地域の生活課題やニーズを踏まえたうえで3年間に注力して取り組む活動を考え、区計画全体の取組み項目の中から、その地区部会エリアの「重点取組項目」を設定し、活動状況の把握や活動の促進を行い、「重点取組項目」を含めた地区部会エリア内の取組みを推進しました。」に修正します。 ④ご意見のとおり、「見守り活動」に修正します。 ⑤の区地域福祉計画と市社協の地域福祉活動計画のあり方につきましては、第6期計画に向けて、検討して参りたいと考えております。
津田 正臣	「避難所運営委員会設立促進及び活動支援」は重要な課題であります。小生の属する自治会も平成25年度に避難所運営委員会設立にかかり、平成28年度まで避難所運営委員会の活動に参加しておりましたが、ここ数年は委員会からの招集がないためか、自治会はその活動に参加しておりません。 指導については各区役所地域振興課が担当している旨の事務局よりの説明ではありますが、適切な指導が必要と感じます。	いただいたご意見を、改めて所管課と共有させていただきます。	計画に特段、問題になる点は無いと思います。 「新しい生活様式」が必然となる中で、オンラインの活用などが行われるようになるが、 ・高齢者が十分に、そのような環境をのりこえ生活出来るだろうか ・高齢者の健康維持に不可欠な「人と人の繋がり」がどのように促進されるようになるかなど関心のあるところである。	ご意見をいただき、ありがとうございます。